

テスト問題作成ガイドライン

出典：Haladyna, T.M., & Rodriguez, M.C. (2013). *Developing and validating test items*. Routledge.

(日本テスト学会講習会「データに基づくテスト分析とテスト作成，新しい時代のテスト —教師力向上のためのヒント—」(2016.10.30) の資料として意識)

表 6.1 多枝選択問題執筆ガイドライン (p.91)

測定内容に関して

1. 各設問は，ある 1 つの内容を理解し，記憶・解釈・応用等，ある 1 つの能力に基づいて解けること
2. より高次の能力を測る問題では，受検者にとって新奇な素材を用いること
3. 各設問の内容は互いに独立であること
4. 重要な事項を問うこと．極端に細かかったり，逆に一般的すぎる内容にならないこと
5. 解答が個人の意見に影響されないこと
6. ひっかけ問題にならないこと

配置に関して

7. とくに低学年の児童に対して，各選択枝は行を変えて 1 つずつ並べること

記述に関して

8. 内容面・形式面，また語法等について，よく校訂・校正すること
9. 言語レベルを受検者集団に合わせること
10. 設問・選択枝ともに，記述量を最小にすること．題意と無関係な文を入れないこと

設問部分に関して

11. その問題で何を問うているかは，設問部分に明確・簡潔に書くこと．選択枝を読まずとも，問題の意味が理解できること
12. 否定表現を使わないこと．もし使う場合は，否定表現部分を強調表示すること

選択枝に関して

13. もっともらしく，識別力の高い選択枝のみにすること．多くの場合，3 枝で事足りる
 14. 正答枝が唯一であること
 15. 正答枝の位置をばらつかせること．系統性がないこと
 16. 選択枝を，音順，数量の大きさなど，何らかの法則に従って配置すること
 17. 各選択枝は互いに独立であること．内容に重なりがないこと．
 18. 「上記のいずれでもない」「上記すべてあてはまる」「分からない」などの選択枝を用いないこと
 19. 「でない」「～以外」などの否定表現を用いないこと
 20. 正答枝を探す手掛かりを与えないこと
 - a. 各選択枝の長さをおおむね揃えること
 - b. 「絶対に」「常に」「決して」「完全に」など，強意語を用いないこと
 - c. 設問と選択枝の間に，解答に影響するような語の重複や類似性がないこと
 - d. 両立しない選択枝など，選択枝の内容から正答を絞り込めることのないようにすること
 - e. 明らかに不要・不自然な選択枝は入れないこと
 - f. 各選択枝の作りを等質にすること
 21. どの誤答枝ももっともらしいこと．典型的な誤答を誤答枝に用いること
 22. ユーモア（お遊び）は用いないこと
-

表 11.1 記述式問題執筆ガイドライン (p.213)

測定内容に関して

1. 問いたいことは何か、どのような知識やスキルを用いて解答すればよいかが、はっきり分かること
2. 測りたい能力の程度に見合った設問形式を用いること
3. 同じことを測ろうとする項目が複数あるとき、それぞれの項目を解くのに必要とする能力は、できるだけ共通であること

フォーマット・スタイルに関して

4. 教示文・設問・項目の配置等をよく校訂・校正すること
5. 予備テストを実施し、問題や採点基準等に不備がないか、よく確認すること

教示に関して

6. 何を問いたいのか、どのような形式で解答したらよいのか、明確に指示すること
7. テストで問われていることは何かを受検者が理解できるようにするため、評価規準（評価のポイント）を明示すること
8. 問いたいことと無関係な要素が解答に影響するのを避けること．暗黙の前提を用いないこと

背景要因に関して

9. 文化差や地域差等を考慮すること
 10. 言語レベルを受検者集団に合わせること
-

表 12.1 記述式問題採点ガイドライン (p.240)

測定内容に関して

1. 問いたいことは何か、どのような知識やスキルを用いて解答すればよいかなど、評価の対象とするものは何かを明確にすること
2. 評価の対象にはしない要素を明確にすること．内容と文法を別個に評価するのも1つの方法

採点基準の作成に関して

3. 分析的評価か全体的評価か、また、課題固有評価か一般的評価かなど、複数ある評価法の中から、適切な評価法を選択すること
4. 問題作成と同時に、採点基準も作成すること
 - a. 異なる解答に対し、異なる得点が与えられる明確な基準を設定すること
 - b. 異なる解答に対し、同じ得点が与えられる正当な理由を立てること
 - c. 正答となるものについて、あまり細かな条件設定をしないこと
 - d. 同じことを測ろうとする項目が複数あるとき、それぞれの項目を解くのに必要とする能力や採点基準は同等であること
5. 本格的に採点を始める前に、いくつか解答を採点して、採点基準を精錬すること

採点過程に関して

6. 能力や適性等において、適格な評定者を用いること
 7. 当該のテストの採点に慣れるために、評定者のトレーニングを行うこと
 8. 個々の評定者内において、また複数の評定者間において、評定の一貫性を保つこと
 9. 評定バイアスを最小にすること
 10. 1つの答案を複数人の評定者がそれぞれ採点すること．それらの代表値をスコアとすること
 11. 他の評定者と比較したり、同じ答案を再評定するなど、評定のモニタリングを行うこと
-